

国際経営論		教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目、経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23102202

1. 授業のねらい・概要

インターネットの普及や諸外国との人材交流が加速化する現在、企業経営の国際化が急ピッチで進行している。授業では、企業経営面で何らかの形で世界とつながっている企業を広く「グローバル企業」ととらえ、グローバル企業を経営する上で必要となる基礎理論を、わかりやすく体系立てて学ぶことを目標とする。

2. 授業の進め方

基本的には、配布資料や参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、授業の開始時に、その日の授業で学習する内容に関して2問程度練習問題を提示し、集中して考える時間を設ける。

3. 授業計画

<ul style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. グローバル企業の定義と基本型 3. グローバル企業の経営組織 4. グローバル企業の経営戦略 5. 国際経営における為替の影響力 6. 為替レートの決定要因と為替ヘッジ 7. 海外現地生産の現状と課題 8. 投資意思決定のメカニズム 	<ul style="list-style-type: none"> 9. 財務戦略の国際化 10. 国際分散投資の基礎理論 11. わが国証券市場における海外投資家のプレゼンス 12. わが国企業による海外M&A 13. 海外マーケティングとeコマース 14. グローバル企業のリスク管理 15. 全体のまとめ
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業終了後、授業中に提示された練習問題を中心に、授業の内容を自分なりに整理してまとめておくこと。こうした復習のための準備学修には、最低1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験終了後、各自に模範解答を配布するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

国際経営論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、世界的に有名な大企業だけでなく、地方の特色ある中小企業の国際化にも焦点を当てて行くので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しないが、授業の進捗に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

基本的に経営学基礎で学んだ知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論と経営戦略論は特に国際経営論と関係が深いので、できれば本授業とあわせて受講することが望ましい。さらに、国際金融論、コーポレート・ファイナンス論、証券投資論の知識と組み合わせれば、本授業の理解が深まると思われる。